

巻頭言

比較日本学教育研究センター長

古瀬 奈津子

本センターでは、2014年度に第16回国際日本学シンポジウムおよび第9回国際日本学コンソーシアムを開催しました。国際日本学シンポジウムは、1999年に大学院改組により博士後期課程に国際日本学専攻が設置されたことを機に始められたもので、今年度で16回を数えることになりました。また、国際日本学コンソーシアムは、2006年度・2007年度と文部科学省が行った「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に本学の国際日本学専攻が中心となって申請した「〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」プログラムが採択されたことを契機として始められ、今年度で9回を数えます。

本学の国際日本学では、国際的視野の中で日本研究を進め、総合学としての日本学を世界に発信することを目的としています。当初は大変斬新であったこのような視点が現在では広く認められており、国際日本学を名称とする教育研究機関を多くみることができます。国際日本学シンポジウムと国際日本学コンソーシアムの長年にわたる開催を思うと、その与えてきた影響や伝統について考えずにはおられません。それぞれ当初の参加メンバーが少しずつ交替しながら、今にいたるまで続いていることは、本学の教育研究活動にとっても意義あることだと思います。

今年度の国際日本学シンポジウムは、「日本学からの対話」を統一テーマに、1日目は「19世紀の東アジアと日本—何がどう変わったのか—」という主に歴史学のテーマ、2日目は「越境する文学の諸相—ことばを越える・ジャンルを越える—」という文学を主体とするテーマによってシンポジウムが行われました。

国際日本学コンソーシアムは、「グローバル化と日本学」という統一テーマで執り行われました。このように、シンポジウムもコンソーシアムもともに偶然なのですが、現代的な課題がテーマとなっており、諸分野における国際日本学視点の有効性を物語っているようでした。

また、シンポジウムにもコンソーシアムにも多くの海外の日本学研究者や大学院生の方たちに参加していただき、本センターの国際的で学際的な日本学のネットワークを築くという目的のひとつが達成されつつあることも嬉しいことのひとつです。

科研費との共催で国際研究セミナーを開いたり、海外から講演者による公開講演会を行ったり、副専攻「日本文化論」を改組して継続したりと、さまざまな活動を行ってまいりました。今後も伝統あるシンポジウムやコンソーシアムを継続していけるように、さらに国際日本学に関する新たな行事を始めることができるよう、努めてまいりたいと存じます。みなさまのご支援をこれからもいただきますようお願い申し上げます。

2015年3月